

【テーマ】

「教育DXの取り組み事例と課題

～学びのスタイル変革とその効果～」

【主催】次世代情報システム検討分科会

活動報告

日時：2023年12月26日（火）14:00 -17:00
場所：羽衣国際大学 or オンライン（ハイブリッド開催）
出席者：50名

1. 研究内容

羽衣国際大学様の教育DX推進に関する取り組み「小規模私立大学のDX教育モデル基盤構築」は2021年度文部科学省「デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン」に採択されました。

まず、はじめに羽衣国際大学様より「羽衣国際大学の教育DXの取組みと今後の展望について」と題して3か年の教育DX推進事業を通して見えてきた様々な課題と成果に関してのお話、また、DXのもう一つの取組みとして推進しているDX支援人材の採用と活用に関して、現場の視点から詳しくご紹介いただきました。

後半はグループにわかれての意見交換を行い、他大学の取り組み事例や課題などを共有する場となりました。

また、研究会の最後にキャンパスツアーで学内施設をご紹介いただきました。

（内容詳細については「3項概要レポート」をご参照下さい。）

2. スケジュール

14:00 分科会開始 開会催挨拶

○ご講演

「羽衣国際大学の教育DXの取組みと今後の展望について」

羽衣国際大学 共通教育開発センター（CSD）センター長 清水 明男 様

○質疑応答

○意見交換

○施設見学

17:00 分科会終了 閉会挨拶

「教育DXの取り組み事例と課題 ～学びのスタイル変革とその効果～」

12月26日（火）、次世代情報システム検討分科会が、大阪府堺市の羽衣国際大学とオンラインのハイブリッド形式で開催されました。

羽衣国際大学様より教育DXの取り組みについてご紹介いただき、意見交換と全体共有を行った後に、動画の収録に使用されているスタジオの施設を見学させていただきました。

神戸学院大学西氏の司会で分科会が始まり、分科会幹事の大阪工業大学井上氏が、「年末のお忙しい中、ご参加いただきありがとうございます。教育DXの必要性については分かっている、どうしたら良いのかは手探りの学校も多いのではないのでしょうか。先進的に取り組まれている羽衣国際大学様の事例を聞けるのを楽しみにしております」と開会の挨拶を述べました。

■ご紹介：「羽衣国際大学の教育DXの取り組みと今後の展望について」 羽衣国際大学 共通教育開発センター（CSD）センター長 清水 明男 様より

○専用スタジオを整備して、学生のかも借り反転授業の動画を制作

本学では、2020年度からDX関連の補助金を得て取り組みを進めてきました。その中で得られた知見や反省点をご紹介します。このDXのプレーヤーは教員、職員、学生すべてで、全学を挙げて取り組んでいます。

2020年に文部科学省から補助金の公募が出たときは、コロナの真ただ中で、ちょうどその年の入学前教育から遠隔教育に取り組んでいたところでした。優れた教育コンテンツがあれば、オンデマンドでの遠隔授業に活かせます。文科省の公募は締め切りまでが短く、学内のコンセンサスを取るのが大変なのですが、幸い本学は小規模大学であるため学長主導で方針を固めることができ、申請、採択に至りました。具体的な内容は2つあり、1つ目が授業の反転化です。反転化にも様々な定義がありますが、予習に重点を置くというよりも、授業の準備をしっかりと本番の授業でよりアクティブに学ぶことを狙いとしています。2つ目が学修成果の可視化です。今年入学した学生を対象に、学生が自分を表現できる「Be the One動画レポート」を始めました。ポートフォリオや就職活動で自己PR動画として使える、自分らしさを表現する動画形式のレポートです。これらのために、補助金を使ってアクセスポイントの強化や動画スタジオの整備等を行いました。また配信システムも構築し、現在は反転化のための動画コンテンツが543本、配信システムに格納されています。

DX支援の人材育成についてご紹介いたします。本学では遠隔授業にZoomを使っていましたが、先生方から画面切り替えがしたいといった様々な要望があり、動画スタジオを整備しました。動画の制作には、撮影や編集、URL発行、ログの取得が必要です。撮影、編集の部分を放送・メディア映像学科の学生の力を借りています。授業以外にも広報用、マニュアル用等様々な動画を制作しています。
<総務課 鈴木様>

現在、反転化のための授業コンテンツを作っている先生の割合は、7割を超えました。これには、1～2回試行的に取り組んでいる先生も含まれます。毎年春と夏に先生と職員を対象にFDS（Faculty Development - Staff Development）研修を行っており、次回の研修では、反転授業の事例紹介を行う予定です。

反転授業では、事前に動画コンテンツで授業の狙いやポイントを学習し、教室ではその確認と発展内容、グループワーク等を行います。これにより、学びを深めることが目的です。また、学生の授業外の学習時間が増えることも期待しました。実際、コロナ前と昨年と比較すると、本学の学生の授業前学習時間は50%増加しています。

私は、人間生活学部人間生活学科にあるパティシエを養成する「食クリエイティブコース」の教員です。実習の多い学科でコロナ禍の前は実技の実習は対面で行うしかないと考えていました。コロナ禍で対面授業ができなくなった当時は、授業の代わりになるような60分から90分の動画を、授業と同じように製菓の工程を撮影して制作していました。これは学生の視聴の負担も大きかったのですが、学生からは「分からないところを何度も視聴できる」という好意的な声もありました。そこで、コロナ禍が明けてもその利点を活かそうと、短い動画を作り始めました。この小さい絞り袋を作る動画は受講者20人のうち19人が授業前に自主的に視聴し、そのうち12人は直接教えなくても動画を観ただけで絞り袋を作れるようになっていました。現在は実習の撮影に特化したスタジオ設備ができ、放送・メディア映像学科の学生が撮影と編集をしてくれるようになり、教員の負担が少なく、誰でも動画が作れるようになりました。
<人間生活学部 市田様>

反転学習の取り組みに対する先生方へのアンケート結果では、「授業の理解が深まった」「授業外学習時間が増えた」といった項目のポイントが高かったです。課題としては「いかに学生に視聴習慣を付けさせるか」等も挙げられました。また科目との親和性にも留意する必要があります。次年度以降は、[Udemy Business](#)、[スマートチューター](#)といった外部の教育サービスの利用も検討しています。

動画制作にあたり、撮影の補助や学生アルバイトの管理、また予定の調整等をしている職員の城間です。例えばこの実習動画では、真上、右、左の3台のカメラで撮影し、場面に応じて切り替えて編集しています。先生と相談してテロップ等も入れ、学生にとって分かりやすい動画に仕上がりました。学生さんは先生の要望を取り入れつつ、観る立場にもなって、見やすい動画になるよう心がけて制作しています。

<総務課 城間様>

動画作成の課題



撮影のセッティングに時間がかかる



編集に時間がかかる



資料作成の為の素材が少ない

気軽に動画作成ができない



実技撮影に特化した設備

VPスタジオ

学生が撮影・編集を行う

学生アルバイト



誰でも簡単に資料が作成できる

Q&Aでは、「事前学習のコンテンツを用意しても、半分ほどしか観てくれずに悩んでいます」という質問があり、「もともと小規模なクラスが多いため、事前学習の視聴を前提として授業を始めることで定着してきたようです。観てこないと授業が始まらないという雰囲気、授業をしている例もあります。今後は入学してすぐの1年生の段階から習慣付けをすることが重要ではないかと考えています」と回答がありました。

■意見交換：

3グループに分かれ、オンライン参加の方も含めて意見交換を行いました。各グループの発表をご紹介します。

Aグループ

このグループには羽衣国際大学の城間さんがいらっしゃったので、質問する形で楽しく会話をしました。まず、学生さんたちが動画制作に関わり、それがスキルアップにもつながっているというスキームは、大変参考になりました。著作権の話も出て、教員が辞めた際にその著作権はどこにあるのかが曖昧で、注意が必要だという意見が出ました。また他大学で、先生方に動画制作ができると伝えたがニーズがなかったという例もありました。羽衣国際大学さんは、全学的なコンセンサスがしっかり取れているのが素晴らしいと思いました。

Bグループ

学生の学修成果の可視化が話題になりました。可視化の方法は、大学のDiploma Policyだけでなく、羽衣国際大学さんのような自ら評価するという側面も大切だという話をしました。羽衣国際大学さんの事例では、トップダウンで改革を主導していたとしても、教員、職員、学生すべてが一体となって教育DXに取り組んでいるのが非常に良いと思いました。著作権については以前、京都産業大学で委員会を立ち上げ、著作権の配分を決めたことがあります。興味のある方はお問い合わせください。

Cグループ

反転授業は、先生方が自分の授業を見直す機会になっているのでは、という意見が出ました。動画の制作にあたっては、ある大学では動画制作の専門家に学生を指導してもらっているとのこと。他に、学生の中には必ずYoutuberがいるので、そういうスキルを持った学生を発掘する、というアイデアも出ました。コロナを経て個人の学びのあり方と、対面授業をどう組み合わせるかも話題になりました。大学として、スマートチューター等の外部サービスと合わせてどう組み立てていくべきかが今後の課題です。

■施設見学：

3種類のスタジオ施設を見学させていただきました。今回は初めて施設見学に関してもスマホでライブ中継して、オンライン配信を行いました。

●VPスタジオ（実習室）

料理をしながら撮影するためのスタジオです。使われなくなった実習室を改修しました。明るい照明があり、背景が真っ白で、きれいな動画が撮れます。また物撮り（料理等の写真撮影）にも使われています。

●マルチメディアスタジオ

放送局さながらのアナウンスブースや、オーディオ・ミキサー・コンソール等を備えた本格的なスタジオです。ブルーバックの背景があり、合成も可能です。学生さんが説明をしてくださり、天気予報のような放送のデモを見せていただきました。

●VPスタジオ（講義室）

講義形式の動画を撮影するスタジオです。スイッチャーがあり、撮影しながらスイッチングもするため、編集の手間をあまりかけずに動画の制作ができます。専用のペンを使って、モニター画面に書き込みをしたり、書画カメラと切り替えたり、ワイプを出したりすることも可能です。

■閉会：

会議室に戻り、京都産業大学の島氏が、「羽衣国際大学様には様々なご協力をいただき、ありがとうございました。学生さんを含め、大学全体で頑張っていらっしゃる非常に良い取り組みだと思いました。施設もを見せていただき大変参考になりました。年度末にもう1回、次世代情報システム検討分科会の開催を予定しておりますので、ぜひご参加ください」と閉会の挨拶を述べお開きとなりました。

4. 参加校 [13校24名] ・参加企業[4社26名] ・参加総数[50名]

大阪工業大学[1] 学校法人常翔学園[1] 関西国際大学[4] 京都産業大学[1] 共立女子大学[2] 久留米大学[2] 神戸学院大学[1]	摂南大学[1] 津田塾大学[1] 東海大学[2] 羽衣国際大学[6] 流通経済大学[1] 麗澤大学[1]	チエル株式会社[3] 富士電機ITソリューション株式会社[2] 有限会社ハーティサービス[1] 富士通Japan株式会社[20]
--	---	---

5. 所感（次世代情報システム検討分科会運営委員会）

今回は「教育DXの取り組み事例と課題」～学びのスタイル変革とその効果」をテーマに、羽衣国際大学の清水明男様から「羽衣国際大学の教育DXの取り組みと今後の展望」としてご講演をいただきました。2021年度文部科学省「デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン」に採択された事業について、3年間の実践内容とその効果や今後の展望に関してのお話いただきました。反転授業の導入とその効果について、また学生を主体とした授業用動画の撮影や編集などの事例を紹介いただきました。

後半はグループに分かれ羽衣国際大学の事例をもとに、自大学で実施をする場合の課題となる点や、反転授業の効果、学生を主体とした動画の撮影、編集を行うことで得られるメリット、作成された動画の著作権の扱いについて等、活発な意見交換が行われました。

また、今回初の試みとして、施設見学のオンライン配信を試験的に実施しました。電波状況が不安定な場所では一部映像が乱れる場面もありましたが、雰囲気は味わっていただけの内容であったと感じました。次回以降も条件によってはオンラインでの施設見学配信を試みたいと思っています。

【分科会の様子】



【事務局より】

次頁以降に開催後アンケート結果（抜粋版）を記載しています。

開催後のアンケート結果詳細版や当日プレゼン資料ご覧になりたい方は、「[CS研・IS研情報交換サイト](#)」に掲載しておりますのでそちらをご覧ください。

「CS研・IS研情報交換サイト」について

○CS研・IS研の会員向けに情報・資料をご提供し、会員の皆様で情報交換をする会員専用のサイトです。

（新規入会・サイトのご利用をご希望の方は、利用アカウント申し込みサイトにてお申込みください。）

情報交換サイトURL：

<https://csis.ufinity.jp/shared>

※利用アカウント申し込みサイトURL：<https://seminar.jp.fujitsu.com/public/seminar/view/89954>

【連絡先】

私立大学キャンパスシステム研究会 事務局

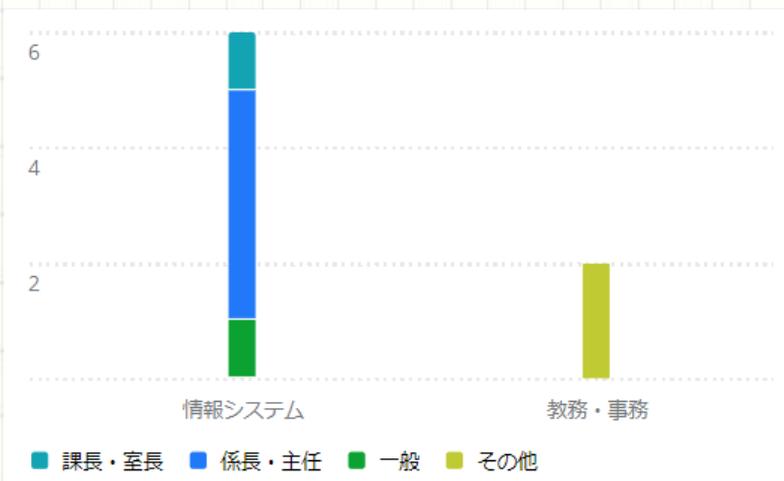
〒105-7123 東京都港区東新橋1-5-2 汐留シティセンター

富士通Japan株式会社 教育ソリューションビジネス部内

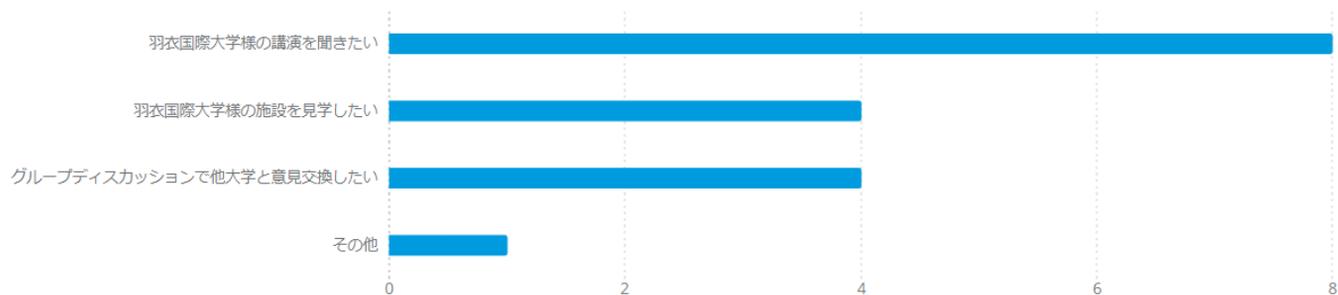
E-mail：contact-csisken@cs.jp.fujitsu.com

開催後アンケート結果【回答数／対象者数：8／24（大学関係者のみ）】

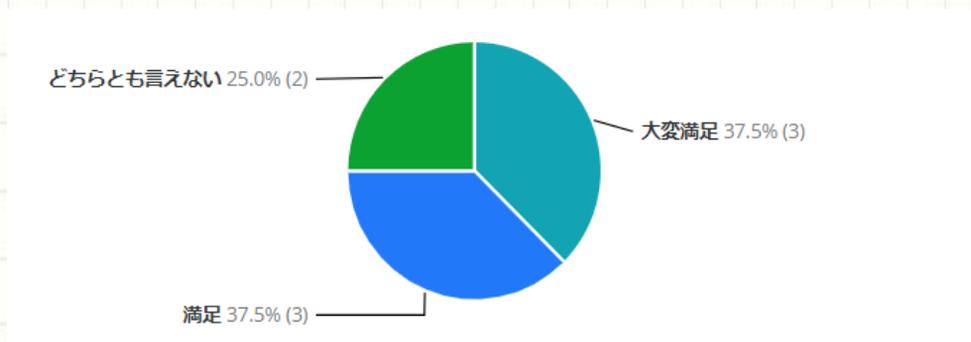
■ 担当業務と役職について



■ 参加した目的について



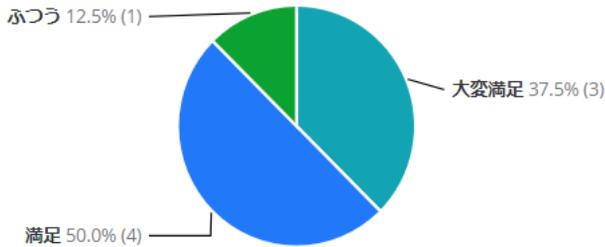
■ 本日の分科会の全体満足度について



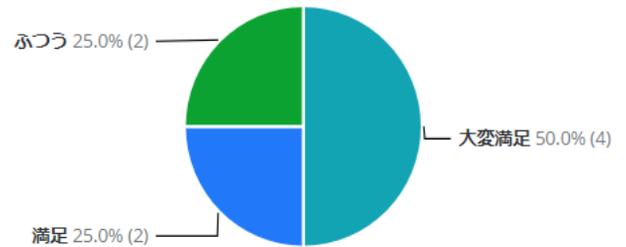
■ 全体満足度の評価理由について（一部省略・抜粋）

- 講演内容、施設見学ともに大変参考になりました。
- オンライン授業の導入前から現在まで大変興味深く、拝聴いたしました。
- 実際の運用等が聞けて、今後の運用の参考になっております。
- 対面で参加でき、会場校の人と意見交換や施設見学ができたため。
- 知りたい内容とは若干異なっていたため

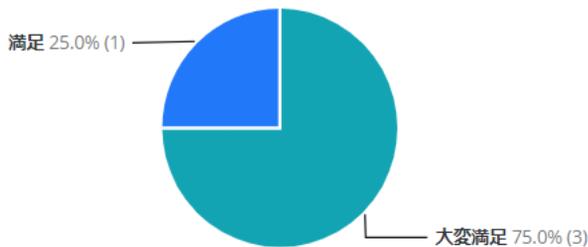
■ 満足度－開催テーマについて



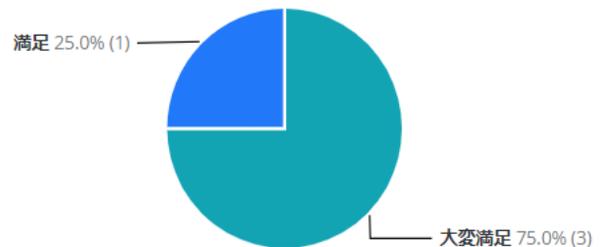
■ 満足度－羽衣国際大学様ご講演について



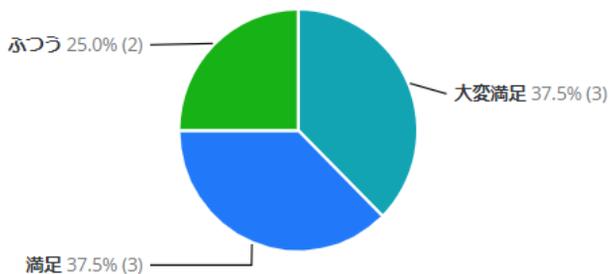
■ 満足度－羽衣国際大学様キャンパスツアーについて



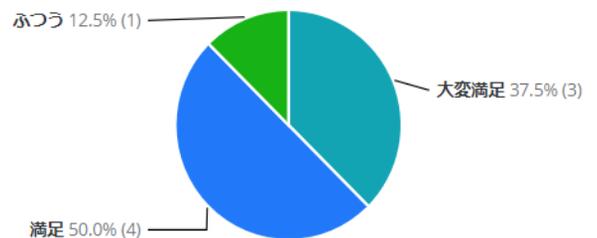
■ 満足度－意見交換について



■ 満足度－時間配分について



■ 満足度－当日の運営について



■ 今後、CS研で取り上げて欲しいテーマについて（一部省略・抜粋）

- 今回の様に実運営の部分を知ると非常に有難いです。今後ともよろしくお願い致します。
- 学生自身が利用し推進できるDX化事例があれば知りたい